

令和7年度 第1回進路指導研修会 実施報告書

1. 研修目的 新学習要領に伴い変化の大きかった令和7年度入試を振り返り、各高校の令和8年度入試に向けた受験指導に活用できる情報提供の場とする。
2. 会場 静岡県私学会館 5階大会議室
静岡市葵区追手町9-26 電話：054-254-8208
3. 日時 令和7年7月4日(金) 15:00～16:40 (受付14:30～)
4. 対象 進路担当教職員等
5. 講演者 講師 学校法人河合塾中部近畿営業部チーフ 柳田 了 様
演題 「令和7年度入試を振り返って」

6. 日 程

- 14:30～15:00 受付
- 15:00～15:30 R7入試における総合型・学校推薦型選抜の動向
- 15:30～15:40 休憩
- 15:40～16:30 R7入試における共テ・一般選抜の動向
- 16:30～16:40 質疑応答

7. 講演内容

1. R7入試における総合型・学校推薦型選抜の動向

大学入試改革や18歳人口減などを背景に、総合・学校推薦型選抜へのシフトが進んでいる。大学入学者に占める総合・学校推薦型選抜の割合は、2000年度入試では国公立大12%、私立大39%だったのに比べ、2024年度入試では国公立大22%、私立大60%に上昇している。国公立大の約2割、私立大の3割強が総合・学校推薦型選抜での募集人員を増やしつつ、一般選抜の募集人員を減らす動きが見受けられる状況で、今後の進学指導のポイントとして次の点が挙げられる。①入試情報の収集を通じ、多様な選考方法があることを理解させる。②大学のAPや研究内容を理解したうえで、探究学習やキャリア教育を通じた深い自己理解や意思決定を、明確な志望理由につなげさせる。③探究学習や自主的な活動、活動実績の蓄積と振り返りを通じて、活動実績を積み、出願書類や小論文で求められる文章力や振り返る力を養う。④アセスメントテスト等を通じた資質・能力の多面的評価による教科の知識・技能にとどまらない幅広い資質・能力に気付かせる。⑥一般選抜も見越した教科学力を向上させ、国公立大を中心に問われる基本的な教科学力の伸長を図っていく。

上記6点から生徒が自己分析を深め、自身の志向・能力・使命を社会の中でどう役立てていくかを言語化でき、具現化のための行動に繋げていく姿勢を作っていくことが重要である。

2. R7 入試における共テ・一般選抜の動向

国公立大では、公立大と準難関・地域拠点大学で志願者が増加している反面、難関国立の志願動向は鈍い。各大学グループの合格率はほとんどの成績層で昨年度よりも若干低下しており、準難関・地域拠点大学の偏差値 50～65 未満で変化が顕著である。一方で直近数年間の合格率は上昇傾向にあり、5 年前との比較では偏差値 60 未満の合格率が横ばい、またはアップしている。

私立大では、首都圏のほぼすべての成績層で昨年よりも合格率が低下した。ただし 5 年前と比較すれば合格率はアップしている。今春厳しかった成成明國武・日東駒専も長期的には緩和の方向に向かっている。近畿圏では昨年度より合格率が下がる傾向がみられた。特に関関同立は偏差値 50～65 未満で合格率のダウン幅が大きくなった。5 年前との比較では各大学グループとも多くの成績層で合格率が上昇しており、緩和傾向がみられる。

進路指導専門委員会 研修会アンケートまとめ (16 名回答)

1. 今回の研修会に参加して、どのように感じましたか。

とても参考になった	11 名
参考になった	5 名
物足りない	0 名
別の内容が良い	0 名

2. 具体的にどのようなところが参考になった、または物足りなかったですか？

- ・客観的に見た年内入試の動向が分かった点。
- ・全国傾向、河合塾の客観的なデータ、河合塾の指導事例など、詳細な内容がとても参考になりました。
- ・面接アドバイス、資料の見方、生徒たちが何を見ているのか知れた
- ・総合型、学校選抜型入試が増えていることは理解していたが、5 年前と比較して一般でも合格率が上がっていることが知れて良かった。ほかにも、これから生徒の面談で話せるネタが多くいただけたので大いに活用したい。
- ・生徒に対しての声かけ 面談での情報
- ・入試の動向と河合塾の指導の仕方
- ・最新の入試動向だけでなく、講師の方の経験に基づくお話が大変参考になった。
- ・データに対する講師の方の所見
- ・国公立大学を中心とした、総合型・学校推薦型、一般入試において、各大学がどのような狙い・目的で入試を行っているのかが良く分かった。
- ・難関大学と準難関大学、その他の大学での違いも良く分かった。対策を行う上で大変有効と考える。ありがとうございました。”
- ・総合型や学校推薦型選抜の動向に時間を掛けていただけたところが有難かったです。入試の分析会などは、どうしても一般選抜が主になってしまうことが多いので、これから拡大していくであろう年内入試について話を聞く機会があり参考になりました。
- ・総合型・学校推薦型入試の傾向や、必要な指導のポイントがわかった。
- ・推薦入試でどのような生徒を大学側が求めているか、私学の場合と公立の場合の質問内容の相違点について
- ・進学校の高校の先生を対象にした、分析の話に片寄らず、進路指導していく上でのいろいろなアドバイスをしていただき、内容も聞きやすく大変参考になった。
- ・総合型選抜と推薦入試において、面接のポイントの違いが参考になりました。
- ・2025 年度入試の結果分析の説明は大変参考になりました。
- ・総合型や学校推薦型選抜についてはもう少しお話がききたかったです。
- ・総合型、学校推薦型入試の増加に伴う人数の推移について。

3. 今後、どのような分野の講演・講師を希望しますか。

※テーマの他、具体的な講師をお書きいただくことも可能です。

- ・今回のような内容を希望します。
- ・中堅層から下位層に対しての進路指導についても伺いたい。
- ・同じテーマでまた聞きたい
- ・探究活動を入試で使う 使い方
- ・志望理由や小論文添削の AI 利用や事例紹介など（2名）
- ・情報分野の研修（生成 AI の活用法）
- ・共通テストデジタル出願により、何か変化があるか。今後は自己採点ではなく、リアルな点数が開示されるのか？など
- ・志望理由書、小論文の指導について
- ・今、注目の学部について、詳しい解説など。機会があれば柳田さんの講演会に参加したい。
- ・「地方の国公立大学の魅力について」の講演を希望します。
- ・総合型、学校推薦型の生徒の指導にあたって業務負担をいかに減らすか。

4. その他、意見がありましたらお書きください。

- ・特にありません。（2名）
- ・今まで参加した講演会で一番聞きやすかったです。大変参考になりました。ありがとうございました。